



「ずっと先まで、明るくしたい。」

この思いを果たしていくため、信頼され選ばれる、しなやかで強い九州電力を目指します。

九州電力株式会社 代表取締役社長 **うりう みちあき**
瓜生 道明

現在、原子力発電所が長期停止し、厳しい需給と収支状況が続いていますが、私たちは、いかなる経営環境においても、この思いを果たすため、お客さまとのコミュニケーションを大切に、事業活動を進めていきます。

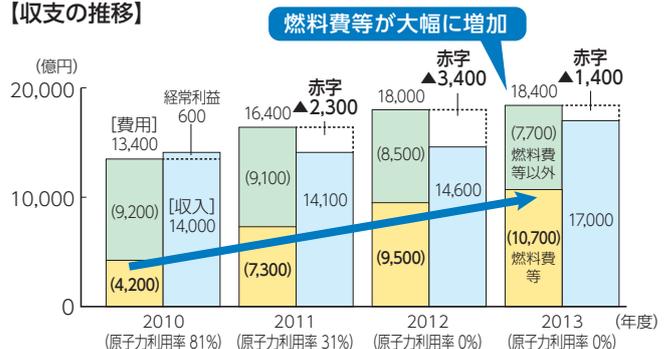
お客さまの生活や企業活動を支えるため、経営効率化にどう取り組んでいますか？

お客さまの生活や企業活動、地域社会を支え、皆さまとともに持続的に発展していくため、徹底した効率化とグループ一体となったコスト管理を行い、環境変化にもしっかりと対応できる収支構造の実現を図ります。

現在は、原子力発電所の停止により燃料費等が大幅に増加し、厳しい状況が続いています。そのため、燃料費等の削減に向けて、経済性の優れた高効率火力発電所の優先運転や、電力取引所を通じた安価な電力調達などに取り組んでいます。

また、設備投資や修繕費、諸経費等については、安全確保や法令遵守、安定供給に細心の配慮を払いつつ、社外専門家の知見を活用した資機材調達コストの低減や、業務全般にわたる効率化などに取り組んでいます。

【収支の推移】



【設備投資の推移】

(原子力安全対策を除く、附帯事業を含む)



【修繕費、諸経費の推移】



2014年夏の厳しい需給状況を どう乗り越えていきますか？

電力を安定的にお届けすることが使命でありながら、今夏も、お客さまに節電のお願いをせざるを得ない状況に至ったことは、誠に忸怩たる思いです。お客さまには、ご不便とご迷惑をお掛けし、誠に申し訳ございませんが、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

当社としても、電力を確保する供給面と、電気の効率的利用の需要面、両面からあらゆる対策を行ってまいります。

〔供給面の取組み〕

- 火力・水力発電所の補修停止時期の調整
- 火力燃料の追加調達、緊急設置電源の活用
- 他社や電力取引市場からの電力調達 など

〔需要面の取組み〕

- エネルギーの効率的利用のご提案
- 需給状況のタイムリーな発信 など

原子力発電に対する不安の声もある中、 安全・安心のためにどう取り組んでいますか？

当面の安定供給に限らず、長期を見据えても、原子力発電は不可欠と考えます。日本は、エネルギー自給率が5%と極めて低く、今後の世界のエネルギー消費量の増加を踏まえると、安全確保を大前提として、原子力発電の活用が必要です。

当社は、福島第一原子力発電所の事故の教訓等を踏まえて施行された国の新規規制基準について、川内1・2号、玄海3・4号の適合性確認を申請しました。今後も、新規規制基準への的確な対応はもとより、更なる安全性・信頼性向上への取組みを自主的かつ継続的に進め、安全確保に万全を期します。

その取組みについて、皆さまにご理解・ご安心していただくことが何よりも重要なため、顔と顔を合わせた丁寧なご説明などを、全社一丸となってしっかりと行っています。

▶ 特集1 (5 ~ 8ページ)

再生可能エネルギーに対する社会の期待に、 どう応えていきますか？

国産エネルギーの有効活用や地球温暖化防止の観点から、これまで太陽光・風力・地熱・水力などの再生可能エネルギーを積極的に開発・導入してきました。2013年度末においては、お客さまの太陽光・風力の設備導入量は315万kWと、前年度の約2倍に増加しました。今後も円滑な受入れを図るとともに、電力品質の維持や、大量に普及した場合の技術開発に取り組みます。

なお、今年7月には、再生可能エネルギー全般を開発する新会社を設立し、お客さまの幅広いニーズにワンストップで対応するなど、より積極的に推進します。

▶ 特集2 (9 ~ 12ページ)

2016年の全面自由化に向けて、 お客さまから選ばれるために必要なことは？

これからの競争の中では、電気事業はサービス業であることを改めて認識し、変化するお客さまや社会のニーズに迅速かつ的確に対応し、時には先取りしていくことが重要となります。

そのため、お客さまのご意見をしっかりとお聴きし、お客さまからいただいた声を事業運営に的確に反映することや、組織風土改革と業務改革を全社一体となって推進していくことで、お客さまから信頼され選ばれる、しなやかで強い会社を目指していきます。

▶ 特集3 (13 ~ 14ページ)



当社は、皆さまとの双方向コミュニケーションツールとして、2006年より「九州電力CSR報告書」を発行してきました。報告書を通じ、取組みをお伝えするとともに、皆さまの声を事業運営に反映してまいります。

2014年6月